

仙台大学

仙台大学 広報室

Monthly Report

仙台大学入学式一期待を胸に新入生629人



新入生を代表して力強く宣誓文を読み上げる奥村陽葉さん＝仙台大学第五体育館

4月5日（土）、春風が吹く中、本学第五体育館で「平成26年度 第48回体育学部第17回大学院入学式」が行なわれました。新入生629人（体育学科305人・健康福祉学科120人・運動栄養学科86人・スポーツ情報マスメディア学科45人・現代武道学科54人・編入学生4人・大学院スポーツ科学研究科15人）は、期待に胸を膨らませながら、入学式に臨みました。

4月1日付けで就任した阿部芳吉学長は、新入生に対し「入学を許可します」と告知。続いて、朴澤泰治理事長が「“答えのない問題”に最善解を導くことができる能力を鍛えてほしい」と期待を込めて挨拶されま

した。入学者を代表して、奥村陽葉さん（体育学科1年―北海道・小樽潮陵高校出身）が「私たちは、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探求し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活をおくれるよう努力して参ります」と力強く宣誓文を読み上げた後、来賓の滝口茂柴田町長からご祝辞を頂きま

した。在学生を代表して、ソチ五輪ボブスレー日本代表の黒岩俊喜さん（運動栄養学科3年―神奈川・橘高校出身）も「仙台大学はスポーツを科学的に研究する大学です。日本有数の施設と情熱的な先生方、さらに心優しい柴田町の方々がいらっしゃいます。私も日本ボブスレー界の一員として、さらに努力して参ります。新入生の皆さん、一緒に頑張っていきましょう」と歓迎の言葉を述べました。

新入生一人一人の大学生活が豊かで充実したものになることを教職員一同、心よりご祈念申し上げます。

< 目 次 >

仙台大学入学式 一期待を胸に新入生629人	1
平成26年度 新任者紹介挨拶	2
中国からの留学生が地域交流― 太極拳教室を開催	7
全日本柔道連盟女子強化合宿in 仙台大学を実施	8
仙台大学の先端機器を駆使した 研究最前線―シリーズ(6)	12
学生の競技結果	13

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございま
したら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成26年度 新任者紹介 挨拶(平成26年4月1日付)

— 教員6名・事務職員4名・新助手6名・臨時職員10名の計26名が着任 —

<p>青沼 一民 教授 (教職支援センター長)</p> 	<p>フレッシュで活気ある、そして意欲のある学生に負けないよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。</p>	<p>村上憲治 准教授</p> 	<p>体育学科でお世話になります村上憲治です。主にバイメカの視点よりスポーツ傷害に関する研究を行ってきました。科学的視点とAT・PT・鍼灸師としての経験を還元できるように頑張りたいと思います。</p>
<p>真野 芳彦 講師</p> 	<p>温故知新を胸に抱き励んでいきたいと存じます。</p>	<p>金井 里弥 助教</p> 	<p>温かさと活気あふれる本学で、学生たちのより実り多き大学生活に貢献できるよう、楽しみながら精進したく思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>渡部 由佳 助教</p> 	<p>約11年間、地元の愛媛県で保健所栄養士として勤務しておりました。一日も早く学生達や教職員の皆様から信頼される教員を目指し、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。</p>	<p>河野 未来 助教</p> 	<p>昨年まで新助手として勤務させて頂いておりました河野未来です。専門種目は新体操です。明るく楽しい授業づくりを心掛けて、学生の皆さんと頑張っていきたいと思います。宜しくお願い致します。</p>
<p>遠藤 近志 さん (管理課長)</p> 	<p>管理課配属の遠藤近志です。よく近藤さんと間違われます(^_^;)皆様とお会いする機会が多いと思います。お見知り置きの程宜しくお願いいたします。がんばります。</p>	<p>駒板 公一 さん (事業戦略室担当課長)</p> 	<p>生まれも育ちも、そして前の仕事もここ柴田町の「生粋のしばたっ子」の駒板公一と申します。事業戦略室に配属となりました。地元柴田町の大学、仙台大学の一員となり大変光栄に思います。</p>
<p>佐藤 真紀子 さん (教務課)</p> 	<p>船岡には祖父や叔母が住んでおり、以前から1年のうち何度も足を運ぶ、馴染み深い土地です。事務経験は浅いですが、精いっぱい頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。</p>	<p>多久島 嘉則 さん (管理課担当課長)</p> 	<p>6月に自衛隊を定年退職し、仙台大学管理課にお世話になる多久島です。環境の変化に対応して柔軟な思考ができるよう努力してまいりますので、よろしくお願いします。 <6月1日付採用></p>
<p>齋藤広子新助手 (AT・川平)</p> 	<p>川平フィールドのATルームで勤務致します。高校生アスリートの外傷・障害・疾病の発生をを少しでも減少させるために精進していきたいと思ます。よろしくお願いします。</p>	<p>壹岐 優 新助手 (ウエイトトレーニング・管理課)</p> 	<p>今年度から新助手として働かせていただくことになりました壹岐優です。大変未熟ではありますが、少しでも母校に貢献できるように日々努力していく所存であります。</p>
<p>大垣 亮 新助手 (AT)</p> 	<p>今年度より新助手として働かせて頂くことになりました。アスレティックトレーニング分野の発展・普及に貢献できるよう尽力して参りたいと思ます。宜しくお願いします。</p>	<p>松浦 里紗 新助手 (健康福祉)</p> 	<p>社会人としての自覚を持ち、理事長、学長をはじめ大学関係者、学生、地域の方との関わりを大切に務めていきたいと思ます。未熟ではありますがご指導の程よろしくお願いします。</p>

<p>三品 朋子 新助手 (運動栄養)</p> 	<p>今年度より運動栄養学科で新助手として勤務致します三品朋子です。様々な業務を通して成長することが出来るよう精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。</p>	<p>仁科 浩平 新助手 (男子体操)</p> 	<p>今年度から新助手としてお世話になります、仁科浩平です。仙台大学の一員として大学に貢献できるよう、最善を尽くしたいと思いますので、よろしくお願い致します。</p>
<p>我妻 晃旗 さん</p> 	<p>この度臨時職員として働かせていただき我妻晃旗と申します。学生支援室ボランティアセンターを担当します。何かと不慣れですが責任ある仕事ができるように努めていきます。よろしくお願い致します。</p>	<p>山家 宗一郎 さん</p> 	<p>今年度から臨時職員として学生支援センターで働きます山家宗一郎です。学生の生活をより良いものにするために、支援していきたいです。よろしくお願い致します。</p>
<p>小林 真衣 さん</p> 	<p>学生時代に培った経験を生かして、元気いっぱい頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します！</p>	<p>山田 彩夏 さん</p> 	<p>このたび健康管理センターで働かせて頂くことになりました、山田彩夏です。将来は養護教諭として活躍したいと思っているので、学生時代から引き続き、たくさんのことを学びたいです。よろしくお願い致します！</p>
<p>渡邊 泰祐 さん</p> 	<p>宮城県タレント発掘育成事業を担当します渡邊です。お仕事の難しさを痛感する毎日ではありますが、事業の対象となる子供たちとともに、若輩者の私自身も成長していきたいと思っております。</p>	<p>高橋 祐也 さん</p> 	<p>私は、昨年度の3月に仙台大学を卒業しました。今年度からは、本学の職員として、学生時代に学んだ多くのことを最大限に活かしていけるよう努めていきたいと思っております。</p>
<p>柴崎 篤 さん</p> 	<p>タレント発掘事業を担当します柴崎篤です。タレント発掘以外にも覚える事がたくさんあり、余裕がない状態ですが毎日笑顔を決やさず子供たちとともに成長できるよう日々精進したいと思っております。</p>	<p>小川 亜紀 さん</p> 	<p>スポーツ健康科学研究実践機構に着任致しました、小川亜紀と申します。微力ではありますが、お役に立てる様、努力精進して参る所存です。何卒、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。</p>
<p>青田 駿 さん</p> 	<p>皆様初めまして。この度入試創職室で勤務をさせて頂くことになりました、青田駿です。皆様のお役にたてますよう全身全霊をかけて勤務していきます。宜しくお願い致します。</p>	<p>半澤 智明 さん</p> 	<p>漕艇部の寮である漕門館で食事を準備させて頂く事になりました。仕事を学びながら喜ばれるような食事を提供できるよう頑張らせて頂きますので宜しく御願致します。</p>
<p>秋葉 智人さん</p> 	<p>仙台大学の臨時職員と明成高校の非常勤講師(保健体育)としてお世話になることになりました、秋葉智人です。仕事も部活動指導も頑張りたいと思っております。高大連携事業をフル活用してサッカー一部強化を図ってまいります。</p>		

タイのシーナカリンウィロート大学から留学生が来訪



阿部学長(左から3番目)と肩を組むタイからの留学生=学長室

4月4日(金)、国際交流提携校のシーナカリンウィロート大学(タイ)からの留学生3名が、高橋まゆみ国際交流センター長(写真左端)・小松恵一教授(国際交流センター企画委員/中央ヨーロッパ・東南アジア担当)(写真右から2番目)・石森靖明職員(事業戦略室)(写真右端)と共に、学長室を訪れました。

ジャトゥロン・マハカノクさん(体育学科2年)(写真左から4番目)、チャトラパト・ナムジュンデーさん(体育学科3年)(写真左から2番目)、プドサデー・クムトンさん(写真右から3番目)は、平成26年4月～8月までの半年間、学部の科目等履修生として学びます。

留学生はそれぞれ、「日本の文化と日本の武道を学び、視野を広げたい。日本の友人をたくさん作りたい」(マハカノクさん)。「早く日本語を覚えて、日本の友人と一緒にサッカーがやりたい」(ナムジュンデーさん)。「将来は、高校の体育教師を目指している。仙台大学では柔道・剣道・空手道・合気道に挑戦したい」(クムトンさん)と留学への意気込みを話しました。

小松教授は留学生3名に対し、「半年間と短い期間ではあるが、日本の文化と習慣を体験し、更に見聞を広めてほしい。何事にも積極的に取り組み、留学の経験を将来に生かしてほしいと願っています」と期待の言葉を述べられました。

第6回元気！健康！フェアinとうほくー「元気体操の楽しみ方」を実演



気軽に楽しくできる「足踏み」を実演する齋藤(左)・柳澤の両新助手=仙台国際センター

4月6日(日)、仙台国際センター(仙台市青葉区)で「第6回元気！健康！フェアinとうほく」(主催：東北大学・河北新報社・東北放送/共催：仙台大学他)が開催されました。同フェアは、東北大学を中心とした講師陣が、最新・最先端の健康情報について幅広い視点でわかりやすく紹介する講演やセミナー・その他の体操プログラムもある健康フェアです。

本学からは、柳澤麻里子・齋藤まり両新助手が「元気体操の楽しみ方」について、家庭でも気軽に楽しくできる「足踏み」・「スクワット」の実演を交えながら紹介しました。安定した歩行・転ばない歩き方を維持できるようにすることがねらいです。「元気体操の楽しみ方」(会場：同センター第三会場「桜」)には、約80名の皆さまがご参加くださいました。

柳澤新助手は「運動は苦手・辛いと思われがちです。今回は、ご自宅に戻られてからでもできる、テレビを観「ながら」・座り「ながら」できる手軽で楽しい運動を紹介しました。心身共に健康な生活の実現に向けて、運動を継続して行なってほしいです」と話しました。

なお、4月5日(土)は、同フェアで本学の山梨雅枝講師が「「美」を体験するための「体力」」について講演を行ないました。

The International Council of Toy Industries (ICTI) presents the Award to SENDAI UNIVERSITY—国際玩具協議会が仙台大学にアワードを授与



(左から) ラースICTI会長、朴澤理事長、富山日本玩具協会会長

4月8日（火）、グランドプリンスホテル高輪（東京都港区）において、本学は国際玩具協議会（ICTI）よりICTI・Awardを受賞しました。これは、同協議会の持廻り年次総会開催国において、子どものために有意義な活動をしている団体に対し、主催国協会の推挙により総会時に与えられる賞であり、仙台大学は東日本大震災被災地において2011年から2013年の3年間「東北こども博」を実施し、子ども達を勇気づけたということが受賞理由となりました。

世界16ヶ国より約50人の各国代表が集うなか、五大大陸をかたどった銅製の風車の楯を受け取った朴澤泰治理事長・学事顧問(写真中央)は英語で「仙台大学がICTIアワードを頂いたことは大変な名誉であり、ICTIに心より御礼申し上げます。東日本大震災は特に宮城県・

岩手県・福島県に深刻な被害を及ぼし、地域の子どもの受けた精神的な痛手は大きく、また自由に遊ぶ場所が無いなどの辛い状況にあるなか、日本玩具協会のご提案により「東北こども博」を開催したところ、2011年に約14,000人、2012年に約16,000人、2013年に約18,000人という多数の方々に参加頂き、子ども達の笑顔を見ることができました。震災復興の今後を担う子ども達の支援の一助となったことは大きな喜びです」と挨拶されました。

次期国際玩具協議会長の英国代表(写真左)から、英国で本学と同様の活動を行っている大学を「紹介したい」などと、今後の国際的な学術的展開を期待できるような交流も図ることができました。



五大大陸をイメージした風車の楯

仙台大学漕艇部の学生たちがボートの魅力を伝える



満開の「一目千本桜」を背にボートの体験会を楽しむ中学生ら
＝柴田町の白石川

4月19日（土）、晴天に恵まれ「一目千本桜」も満開に咲く中、仙台大学漕艇部主管「第8回しばたまちさくら

回廊ボート体験会」が、柴田町北船岡の河川敷公園で開催されました。柴田町の中学生ら約30人が参加し、川面からの風を受けながらボートの試乗を楽しみました。ボートには本学漕艇部の学生たちも同乗。子どもたちにボートの魅力を存分に伝えていました。また、エルゴメーター（陸上でボートを漕ぐ動きを体験できる機械）体験も行ないました。

ボート体験会は、地元の子どもたちに、白石川の自然の素晴らしさとボート競技に興味・関心を持ってもらうことを目的として、本学と柴田町などで組織された実行委員会が主催。昨年に続き2回目の参加となった中学3年の男子生徒は、「前回よりも上手に漕げるようになり、楽しかった。ボートから見る桜が格別に良かった」と話しました。

仙台大学体育学科スポーツマネジメント・コースの春季研修会を開催



平成26年4月19日（土）～20日（日）、宮城県蔵王自然の家にて、仙台大学体育学科スポーツマネジメント・コースの春季研修会が行われました。参加者は、新たに同コースに所属することになった2年生81名（2名が欠席）、2年生を指導し研修会を運営する補助学生（同コース3～4年生）10名、教員4名でした。天気にも恵まれ、蔵王の自然に囲まれながら充実した研修会を実施することができました。

この研修会には、大きなねらいが2つあります。1つは参加学生、補助学生、教員との交流です。緊張をほぐすための「アイスブレイクゲーム」、グループごとに一人では解決できない課題に取り組む「イニシアティブゲーム」、夜の体育館で行われた「グループ対抗戦ゲーム」など、1日目は遊びやレクを中心に行い、参加者が楽しみながら交流できるようにしました。なるべく多くの人と触れ合ってもらうため活動ごとにグループを変更し、顔も名前も知らなかった人とも活動を通して親密になることができました。また、補助学生として参加学生を指導してくれた先輩と仲良くなったり、授業でしか接点のない教員の意外な一面が見えたりと、横のつながりだけでなく、縦のつながりもできました。

2つ目のねらいは、同コース2年生の必修授業であるスポーツマネジメント実習の事前指導です。大学の教室で実習の内容を説明するのではなく、実際にお世話になる施設に出向き研修をうけることで、より実のある事前指導になると考えています。2日目のプログラムは、実習を経験した先輩の話聞く「体験談話会」で具体的にどんなことを実習ですのか、どんなことに気をつければいいかを学び、その後「野外炊事」、「スコアオリエンテーリング」などの自然の家の活動を実際に体験しました。実習では多くの小中学生に指導する立場となりますが、自分が体験したことがなければいい指導はできません。まずは、活動の楽

しさを施設の使い方を身を持って体験してもらうことで、実習での指導につなげてくれることを期待します。他にも、自然の家ならではの部屋の使い方や布団のたたみ方、食堂の配膳システム、朝夕のつどいや入所式・退所式の進行の仕方など、自然の家の利用方法を知りいい機会となりました。

これらの2つのねらいをもって同スポーツマネジメント・コースではこの春季研修会を行っていますが、実は我々教員にはもう一つの裏目的があります。それは、補助学生の成長です。この研修会を始めた頃は、教員が研修会を企画し、運営・指導していました。数年ほど前から補助学生の教育にも力を入れるようになり、補助学生がレクリエーションを企画したり、生活指導をしたりするようになりました。すると、2年連続で補助学生をやる4年生が3年生を指導したり、同じ学年同士で刺激あつたりと、非常に高い教育効果が生まれるようになりました。また、補助学生の活躍を見て、2年生が「来年は自分も補助学生に挑戦してみたい」と思うなど、良い循環も生まれました。その結果、教員は事前に補助学生に指導者トレーニングやミーティングを行えば、当日はほとんど補助学生が学生を指導し、研修会を運営してくれるほどになりました。反省会でも、研修会をよりよくするためのアイデアを出したり、もっと指導者としての資質をあげたいという感想が聞かれるなど、意欲的な態度が見られました。野外・レクリエーションの本当の魅力は、「やって楽しむ」ことよりも「指導する」ことにあります。今回は補助学生の10人がその魅力をより深く味わってくれたと思います。そして、2年生たちはこれから、「指導する」魅力を味わってほしいと思います。来年度は、何人の学生が補助学生を希望してくれるかが楽しみです。

< 報 告 : 体育学科スポーツマネジメント・コース

講師 岡田成弘 >

< 写 真 : 同 助教 弓田恵里香 >



中国からの留学生が地域交流—太極拳教室を開催



太極拳を指導する趙偉さん（左）と張希雲さん（右）
＝船迫生涯学習センター

4月20日（日）、柴田町の船迫生涯学習センターで中国からの留学生・趙偉さん（仙台大学大学院2年—中国・上海体育学院出身）と張希雲さん（仙台大学大学院1年—中国・瀋陽師範大学出身）が講師を務める「太極拳教室」が行なわれ、地域から25名の方が参加しました。

同教室は、仙台大学の留学生との交流をとおり中国伝来の太極拳を練磨し、会員の健康増進と相互の親睦を図ることを目的として、柴田町日中友好協会が主催。今年で7年目を迎えました。

昨年から太極拳教室の講師を務めている趙偉さんは「和気あいあいとした雰囲気の中、楽しく太極拳教室を実施することができています。皆さまは、大変意欲的に取り組み、素晴らしい上達です。太極拳を通じて、心身ともに健康的な生活の実現に貢献していきたいです」と日本語で話しました。

7年間継続して太極拳教室に参加されている柴田町日中友好協会の大槻則子さんは、「中国からの留学生たちは真面目で素直。留学生との交流を楽しんでいます。太極拳は、静かでゆったりとした音楽に合わせて、深い呼吸で体を動かす気持ちよさが魅力です。もっと上達したいです」と話しました。

太極拳教室は、定期練磨として月2回（4月から翌年3月まで年間24回）実施する予定です。

海を越えて輝く学生たち(1)—海外留学研修報告会を開催



台湾・台東大学の交換留学について報告する
佐々木さん（体育学科4年—秋田・由利高校出身）
＝仙台大学第五体育館大会議室

4月23日（水）、本学第五体育館大会議室で、米国（カリフォルニア州・ハワイ州）・デンマーク・フィンランド・台湾に留学していた学生たちによる「海外留学研修報告会」（平成25年度後期実施分）が開催されました。報告会には、約100名の教職員や学生に加え、現在来学中のデンマーク・リベルト大学社会教育学部のメテ・リヒター准教授とソーニャ・シュルツ准教授も参加されました。

報告会で学生たちはそれぞれ、「授業は全て英語。米国のアスレティックトレーナーは、テーピングやアイシ

ングなど選手の身体のケアのみならず、栄養・食事面の指導も行なっている」（米国・ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修）、「教育大国のフィンランドの授業は、学生主体で行なわれている」（フィンランド・カヤニ応用科学大学短期交換留学）、「ホームステイを経験。相手の英語が早口で、聞き取れずに苦勞した。普段から英語に触れる重要性を痛感した」（米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校スポーツ栄養及びスポーツマネジメントセミナー）、「世界一幸福な国と評価されているデンマークの福祉政策は充実している。特に、障害者雇用への取り組みが素晴らしい」（デンマーク・ノアフェン国民大学福祉研修プログラム）、「アクティブな授業を通して様々な経験ができた。授業は教員の他、4年生が先生となって指導するなど、日本の大学との大きな違いを感じた」（台湾・台東大学短期交換留学）、「半年間、5人部屋の寮生活を経験。スキューバダイビングやロッククライミングなどのアウトドアスポーツにも挑戦。異文化に触れ、自分の世界を広げることができた。友達もたくさんできた」（台湾・台東大学正規交換留学）（＝写真）と留学を通して有意義な経験ができたことなどが報告されました。

最後に、高橋まゆみ国際交流センター長が「日本と留学先の国との懸け橋になってほしい。経験は専門家を育てる。人とのつながりを大切に、さらに成長してほしい」と締めくくられました。

全日本柔道連盟女子強化合宿in仙台大学を実施



柴田町のイメージキャラクター「はなみちゃん」のハンドタオルを手にする選手たち=仙台大学柔道場

4月22日（火）～26日（土）までの期間、柔道女子日本代表の監督と本学柔道部の総監督を務める南條充寿准教授（写真後列：左から二番目）、ロサンゼルスオリンピック・ソウルオリンピック柔道競技男子95kg超級金メダリスト・斉藤仁氏（全日本柔道連盟強化委員長）（写真後列：左から二番目）、ロサンゼルスオリンピック・ソウルオリンピック柔道競技男子95kg超級金メダリスト・斉藤仁氏（全日本柔道連盟強化委員長）（写真後列：左から三番目）らの指導の下、仙台大学柔道場を中心に「全日本女子柔道強化合宿」が実施されました。

同合宿には、ロンドンオリンピック金メダリストの松本薫選手（フォーリーフジャパン）や同オリンピック7位の田知本遥選手（総合警備保障）ら日本トップクラスの選手17名が参加。本学柔道場で技の稽古に汗を流し、近辺にある柴田町の船岡城址公園や山崎山では走り込みを行なうなど、基礎体力の強化を図りました。

なお、4月23日（水）、ロサンゼルスオリンピック柔道競技男子無差別級金メダリスト・山下泰裕氏（全日本柔道連盟副会長）が選手の激励に来校。山下氏は、南條准教授と共に挨拶のため学長室を訪れ、朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長と懇談を行ないました。



山下泰裕氏（写真中央）=学長室

仙台藩志会公開歴史講座 伊達学塾「明治天皇と東北巡幸」 —伊達宗弘客員教授



講演する伊達宗弘客員教授=仙台市戦災復興記念館

4月26日（土）、仙台市青葉区の戦災復興記念館5階会議室で、仙台藩志会公開歴史講座伊達学塾が開催され、登米伊達家の十六代当主でもある本学の伊達宗弘客員教授（元宮城県図書館長）が「明治天皇と東北巡幸」について講演（仙台藩志会主催）しました。

講演には、藩祖伊達政宗公や歴史に関心のある約80名の方が参加。講演の中で伊達客員教授は、「明治9年（1876）、明治天皇は陸路で50日をかけて東北・北海道巡幸を行なった。県から県への引き渡し・宿泊・おもてなし・警備などがはじめて制度化された巡幸となった。明治9年の東北巡幸が皇室と国民のあり方を決めていくきっかけとなった。また、明治天皇の東北巡幸に同行した大久保利通が、地政学見地に立って「東北開発」を主導する計画を立案した」などの内容を話され、参加者の皆様方は、丁寧な解説に熱心に耳を傾けていました。

講演会終了後、仙台藩志会塾長の伊達宗行氏は「格調高い、優れた講演会だった。天皇をシンボルとした国家統合の試みや明治天皇御巡幸の歴史的意義などをわかりやすく話され、ご講演を拝聴でき、大変満足している」と話されました。

なお、伊達学塾は平成18年に発足。今年で9年目を迎え、今回は90回目の講座でした。

「JPTA GO with TENNIS スマイルとうほくプロジェクトIN仙台」 —本学学生が運営ボランティアとして参加



イベント終了後、松岡修造さん(中央)を囲んで記念撮影
＝シェルコムせんだい

4月29日(火・祝)、シェルコムせんだい(仙台市泉区)で、テニスを通して東北を元気にする被災地応援イベント「JPTA GO with TENNIS スマイルとうほくプロジェクトIN仙台」(主催：日本プロテニス協会、スマイルとうほくプロジェクト/後援：仙台市、河北新報社、岩手日報社、福島民報社、仙台大学)が行なわれ、本学体育学科スポーツマネジメント・コースに所属する学生46名が運営ボランティアとして参加しました。また、本学の阿部芳吉学長(写真：前列左から5番目)も開会式の際に挨拶され、終日イベントの様子を見学なされました。

このイベントの企画には、本学硬式テニス部OBの佐藤雅幸氏(専修大学教授・修造チャレンジスタッフ/昭和53年体育学科卒)、千野時晴氏(ニックケインドア

テニス社長・日本プロテニス協会理事/昭和54年体育学科卒)が係り、また当日の地元コーチ陣のコーディネートを門脇章氏(日本プロテニス協会東北地区長/昭和55年体育学科卒)が担当されました。さらに、当日の地元コーチ陣として、数名の本学硬式テニス部OB・OGが熱心に指導されていました。

日本プロテニス協会理事長の佐藤直子さん(日本人初の女子プロテニス選手)や松岡修造さんら元プロテニス選手によるジュニア向けテニスレッスン会、ファミリーで楽しめるプレイ&ステイ体験などが実施され、685名の親子らが参加。会場は、たくさんの笑顔で溢れました。

学生ボランティアを引率した体育学科長の仲野隆士教授(写真：前列右から5番目)は、「電通というプロのマネジメント会社の運営スタッフとして関わったことが良かった。大きなイベントの裏方を知り、実際に体験しながら学ぶ「実学の場」となった。」「学生たちはそれぞれの持ち場で、笑顔を絶やさず頑張っていた。大いに評価したい」。学生ボランティアと

として参加した硬式野球部マネージャーの本名裕さん(体育学科スポーツマネジメント・コース4年一福島西高校出身)は、「何事も事前準備が大事であることを再認識させられた。子ども達が純粋にスポーツを楽しむ姿を見て、元気をもらった。この経験を就職活動と部活動に活かしていきたい」と感想を話していました。

学生支援センター主催「留学生歓迎お花見会」を開催



宮城県では2月4日正午から6日にかけて冬型の気圧配置となり、下層寒気については「10年に1度」の強い寒波が日本列島に流れ込み全国的に寒い日が続きました。その積雪が嘘かのように見事に咲く桜の木々は、人々の心を魅了したことでしょう。

4月18日(金)肌寒い気候の中ではありませんでしたが、留学生の歓迎会を兼ねたお花見会が船岡城址公園にて開催されました。

お花見会では、留学生たちが自慢の歌と踊りで雰囲気盛り上げ、寒さを吹き飛ばしてくれました。留学生の意外な一面を見ることができ、交流の面白さを知ることができました。

<留学生からのコメント>

「みんなで一緒に話したり、食べたりしたことが楽しかった。」(台湾留学生)

「お酒が美味しかったです。先生の歌が素晴らしいと思いました。でも、寒かったです。」

(中国留学生)

お花見会には多くの参加者が集まり、大いに賑わいました。このようなイベントを通して留学生たちとの親睦を深めていきたいと思ひます。

<報告：学生支援室臨時職員 小林真衣>

海を越えて輝く学生たち(2)—CSULB 短期研修報告

研修先:California State University , Long Beach

2月10日(日)から2月21日(木)の約2週間、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学研修プログラムが実施されました。

参加学生、引率教職員は以下の通りです。

教職員	仲野隆士教授(体育学科長) 柴田恵里香助教 西川里美新助手 千葉慎太郎新助手
学 生	田中利樹さん(体育学科3年-仙台城南高校出身) 石川美香さん(体育学科3年-宮城・聖和学園高校出身) 霞 祐介さん(体育学科2年-青森戸山高校出身) 大久保理子さん (運動栄養学科2年-神奈川・岸根高校出身) 草野匡哉さん (スポーツ情報メディア学科1年-福島・日大東北高校出身) 須藤拓也さん (スポーツ情報メディア学科1年-福島・本宮高校出身)

プログラムはスポーツマネジメント、スポーツ栄養、スポーツメディアの三分野で構成されており、講義内でわからないことがあると、それぞれの分野を専攻している学生が補足したり、教えたりといった非常に良い雰囲気



講義：ビジネスにおけるスポーツの役割

で学習することができていました。スポーツマネジメントの授業においては実際に日本で行うことを想定したイベントを企画し、運営方法を考えプレゼンテーションを行い、スポーツ栄養の講義ではアメリカのアスリートが食べている間食を試食するなど、実践的な学習が多かったです。

学生は日を重ねるごとに協調性が増していき、自分の専門分野以外の内容に対しても興味を持って取り組んでいました。

たなかとしき

田中利樹さん(体育学科3年)は、「施設の規模の大きさに驚いた。アメリカにおいてネーミングライツ(命名権)は広く普及しているが日本ではまだ歴史が浅い。また、指定管理者制度ももっと有効活用していく必要がある。最終的に一般の人も利用しやすい環境づくりをするため今回学んだ事を活かしたい」と振り返りました。

昨年度とは違う試みとして今回、学生は二人一組でホームステイを行い、出発前から日常会話やホームステイ先で必要な会話を学んでいました。



現地の学生、教職員と交流する様子

現地ではホームステイ先でも英語に触れること、コミュニケーションを取ったことで、講義の中でも積極性が増したのではないかと感じま

す。講義のみならず、現地の学生や教職員との交流会もあり、スポーツ・テンカや人間知恵の輪などのレクリエーションを行い、絆を深めることもできました。最終日の修了式ではこの短期留学で学んだこと、思い出などを学生一人一人が英語でスピーチをし、それぞれの熱い気持ちを精一杯伝えていました。

今回の短期留学では様々な場面でアメリカの文化に触れることができ、また、一人一人が専門分野以外の知識も多く得ることができ、今後の大学生活や人生に活かせる大変貴重な経験を積むことができたのではないかと考えます。

<報告：新助手 西川里美・千葉慎太郎>



全体集合写真…修了式

海を越えて輝く学生たち(3)ー

ハワイスクーリング・アスレティックトレーニング研修ビギナーコースを実施



平成26年2月23日（日）より3月2日（日）にかけて平成25年度ハワイスクーリング・アスレティックトレーニング研修ビギナーコースが実施されました。平成15年度より始まった同研修は、秋季に行われるアドバンスコースと合わせ、今回で19回目の実施となります。また、平成23年度より3期連続で日本学生支援機構の留学生支援制度に採択されている研修でもあります。今回の研修には、体育学科3年の阿部昌子さん、同2年の二瓶柚紀さん、伊藤政樹さん、千葉美保さん、渡辺由樹さん、岩崎有希さん、國分尚樹さん、運動栄養学科2年の尾崎洋美さんと畠山莉加さん、体育学科1年の古山彩歌さん、会川勇太さん、柏崎祐太さん、菊池彩花さん、そして運動栄養学科1年の村上泰司さん、合計14名という多くの学生が参加しました。引率は、千葉勝彦大学運営コンサルタント、西塚良重学生支援室長、佐藤美保広報室長、小田桂吾講師、山口貴久講師、菅野恵子新助手が行いました。

現地に6日間滞在するこの研修では、ハワイ州立大学マノア校のキャンパスや体育施設の見学、留学生支援室（International Student Service）訪問、英会話の授業、アスレティックトレーニングに関する様々な実習や講義、

現地アスレティックトレーナーとの交流などの専門分野の研修に加え、フラダンスショー見学やダイヤモンドヘッド登山などハワイ文化にも大いに触れる、とても内容に富んだ研修でした。参加した学生たちからは「英語への恐怖心が和らいだ」「たくさんのアスレティックトレーナーとの交流を通して様々なことを学んだ」「またハワイへ研修に来たい」「留学を現実的に考えてみたい」など好意的で意欲的な意見が多く聞かれました。

今年の9月には本研修のアドバンスコースが実施されます。この研修も先述した日本学生支援機構の留学生支援制度が適用されるプログラムです。本学とハワイ州立大学との交流は10年が過ぎ、9月の研修を機に新たな段階へ進む予定です。次回も多くの学生たちに参加していただき、歴史的な瞬間をとともに迎えたいと思います。

<報告：講師 山口貴久>



仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線—シリーズ(6) 「新型高速トレッドミル」



写真：新型高速トレッドミル
＝仙台大学専門研究棟(C棟)1階「スポーツ生理学実験室」

(1) 「新型高速トレッドミル」の概要

トレッドミルとは、ベルトコンベア上の台の上を走行し、その場でランニングやウォーキングをしながら、運動負荷試験やトレーニングを行なうために用いる機器です。

本学に平成22年12月に設置された「新型高速（幅広）トレッドミル」は、早川公康准教授の恩師である小林寛道東京大学名誉教授（元日本体育学会会長）から仙台大学に寄贈されました。従来型のトレッドミルに比べ、幅が広くて走り（歩き）やすく、ダイナミックな動き（腕振り等）が可能であり、日本に数台しかない先端機器です。高速ランニングから極めて遅い歩行まで対応できるようになっており、速度は0-36km/h（100mを10秒0で走れる最高速度）、傾斜は-5.7~14度（下り坂ならではの実験やトレーニングが可能）。速度と傾斜ともに高性能システムにより制御され、目的に応じて、速度と傾斜設定を変えた作動が可能となっている。

(2) 早川公康准教授に聞く、今後の展望—仙台大学の場合

「新型高速（幅広）トレッドミル」を用いて、トップアスリートの高速ランニングから障がいのある方や高齢の方向けの超低速歩行まで、あらゆる身体能力レベルの人たちにとって有益な成果を生み出せるように活用・展開しております。

仙台大学の学生や教職員、さらには地域の子どもから高齢者、トップアスリートから障害者まで幅広く有効利用してもらえるように対応していきたいと考えています。

本学のPR看板広告—

JR仙台駅2階クイックビジョンのデザインリニューアルのお知らせ



北柱＝JR仙台駅2階



南柱＝JR仙台駅2階

4月1日（火）より、本学のPR看板広告も掲出されているJR仙台駅2階の看板広告（クイックビジョン15秒看板／新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド）のデザインを一新しました。

今回は、仙台のプロスポーツで活躍中のベガルタ仙台・蜂須賀孝治選手（平成25年体育学科卒）、東北楽天ゴールデンエンジェルス・上田亜樹さん（健康福祉学科卒）、仙台89ERS・佐藤文哉選手（平成25年体育学科卒）の本学卒業生を起用。リニューアルした看板広告をぜひご覧ください。

<今回リニューアルした看板掲出期間及び掲出場所について>

- ・4月1日～4月13日まで—JR仙台駅2階の新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド（右サイドのみ無料掲載）
- ・4月14日～9月30日まで—JR仙台駅2階の中央通路改修工事が行なわれるため、同左サイド（南柱）のみの掲出となります。

熊原健人投手(体育学科3年)が一試合19奪三振を記録—仙台六大学野球



—試合19奪三振を記録した熊原投手=東北福祉大学野球場

4月20日(日)、東北福祉大学野球場で「仙台六大学野球春季リーグ第二節2回戦」が行なわれ、仙台大学は東北工業大学と対戦し、熊原健人投手(体育学科3年—宮城・柴田高校出身)が10回まで毎回の19奪三振(9回までは

18奪三振：リーグ2位タイの記録)を奪い、完投勝利を収めました。この日のストレートの最速は、147km/hを記録。一試合最多奪三振のリーグ記録は、平成18年の春季リーグで岸孝之投手(現埼玉西武ライオンズ—東北学院大学出身)が9回を投げて、リーグタイ記録の19奪三振を奪っています。

速球派右腕・熊原投手は「ストレートと変化球(スライダー・フォーク)のキレも良く、丁寧にコーナーを突くことができた。憧れの岸投手に近づくことができ嬉しい。チームが勝つための投球をするだけ。次も頑張りたい」と話し、森本吉謙監督は「熊原が投げれば大丈夫というどっしりとした雰囲気が出た。これからもプライドを持ってマウンドに立ち、チームの勝利に貢献してほしい」と話しました。

試合はタイブレーク10回裏、一死満塁から4番・松本桃太郎選手(体育学科2年—北海道・北海高校出身)が右中間を破る二塁打を放ち、逆転サヨナラ勝ちを収め、「勝ち点1」を掴みました。